

平成 30 年度第 2 回小牧市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時	平成 30 年 10 月 18 日 (木) 13 時 30 分～15 時 30 分
場 所	小牧市役所 東庁舎 4 階 本会議用控室
出 席 者	<p>【委員】 (敬称略)</p> <p>岩満 賢次 岡山県立大学准教授 福澤 広 小牧市薬剤師会代表 社本 久美 公益社団法人 愛知県歯科衛生士会代表 吉元 寛子 小牧市介護支援専門員連絡協議会代表 田中 秀治 一般社団法人 愛知県社会福祉士会代表 野口 弘美 小牧市保健センター 沖本 榮作 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 坂東 抄子 小牧市介護相談員代表</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 市長公室地域協働担当部長 兼 健康福祉部 地域福祉担当部長 伊藤 俊幸 健康福祉部次長 江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長 山本 格史 健康福祉部 長寿・障がい福祉課長 伊藤 京子 健康福祉部 介護保険課長 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長 永田 智奈未 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係主事 三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧管理者 尾崎 雅代 小牧地域包括支援センターふれあい管理者 小林 永尚 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷管理者 瀬口 幸恵 篠岡地域包括支援センター小牧苑管理者 金田 泰丈 北里地域包括支援センターゆうあい管理者</p>
傍 聴 者	0 名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料 1 平成 29 年度 小牧市地域包括支援センター 事業評価報告書(案)</p> <p>資料 2-1 地域包括支援センター事業 自己評価表 ※参考資料</p> <p>資料 2-2 平成 29 年度小牧市地域包括支援センター事業報告(各包括のまとめ) ※参考資料</p> <p>資料 3 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について</p>

主な内容

<p>1. 開会</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 各地域包括支援センターの事業評価について</p> <p>【事業評価の全体的な概要と流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、概要を説明。 ・質疑、意見等なし。 <p>【各地域包括支援センターの事業評価・南部包括】</p>
--

- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○田中委員

- ・1年目ということであるが、非常に頑張られている。
- ・特に総合相談の部門のカウントが高く、様々な相談に対応しているという印象がある。
- ・表の見方を含めた質問であるが、市の評価で、医療機関等への訪問活動に積極的に取り組んでいるとあったが、グラフでは在宅医療・介護連携推進事業の評価が低いのは項目の内容の影響なのか。

○事務局

- ・この項目の評価指標に基づいて評価すると、3という項目に該当することになり、グラフとしてはこのような形になる。

○福澤委員

- ・総合的な判断として、総体的に地域ケア会議の実施の評価が低いように思われる。
- ・このことについては、小牧包括、味岡包括、北里包括にも言えることである。その中で篠岡包括だけは高い評価となっている。地域ケア会議とはどのような取り組みなのか。また、どのように評価を上げていくつもりなのかをお尋ねしたい。
- ・資料2-2の2業務実績の(1)事業実績、(2)援助方法について、篠岡包括の合計が少ないが、このような突出したものについて、どのように理解すればよいか。
- ・同じく3.(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援事業の件数については、味岡包括だけがすがすがしいが、どのような取り組みをしているか。

○事務局

- ・地域ケア会議の実施について、(23)・(24)・(25)の項目があり、基本的には開催回数が焦点になっているため、全体的に弱い部分としてあらわれてきている。
- ・篠岡包括の事業実績が極端に少ないことについては、カウント上のルールはあるが、恐らく少なくカウントされているのではないかとと思われる。実数的にはもう少しあるのではないかとと思われるが、報告数字としては資料2-2のとおりとなる。今年度は、気をつけてもらいながらカウントしている。
- ・圏域や案件による事情はあるが、味岡包括は、他の包括と比べると直営でプラン作成している件数が多い状況にある。

【各地域包括支援センターの事業評価・小牧包括】

- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○吉元委員

- ・ケアマネジャーへの取り組みが不足しているというよりも、ケアマネジャーが包括に助言や協力を得たいケースや、協力を得たい時期と包括の支援や協力時期について、ずれがあるのではないかと、いつも感じている。恐らくケアマネジャーはもっと手前の大変なことになるという予測ができた時点で、協力や支援を求めるが、ケアマネジャーと包括の間に温度差があって、ケアマネジャーと包括がちゃんと組んでいないのではないかと感じている。
- ・広い地域という視点で見る包括と1つのケースに特化して見るケアマネジャーとの視点の差があるのではないかと思う。その部分をお互いに話し合い、支援のタイミング等をお互いが納得できていれば、恐らく、不足も不満もなくなると思う。コミュニケーションをとるゆとりがお互いにないのかもしれないと思う。

○福澤委員

- ・小牧地区は、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築の評価が低いが、コ

ンタクトをとりやすい環境であると思うが、どうか。

○事務局

- ・小牧包括は、母体が社会福祉協議会であるため、内部である程度、連携がとれていると思われる。
- ・ネットワーク構築に関する評価項目として、多職種連携を強化するための交流会や会議等を包括が主体となって開催しているかを基準としているため、点数が低くなっている。

○事務局（小牧包括）

- ・医療職やケアマネジャーほか、様々な職種の方と連携を図っている。しかし、包括が主催で多職種が集まる会を開催するところまでは至らず、個人的な電話での相談や同行での支援という個々の動きに重点を置いたため、会議の企画までは、29年度に実施できなかった現状である。

○田中委員

- ・地域ケア会議の実施についても、点数が低いように感じるがどのような理由があるのか。

○事務局

- ・評価として、地域ケア会議については、開催しているかどうかと、地域ケア会議で把握した状況や課題を包括の職員内で共有していく部分について、小牧包括は朝礼等で共有するにとどまり、回覧等で共有した記録が確認できず、実績がはっきりしなかった部分があったためこのような評価となった。

○田中委員

- ・昨年度の評価については、やはり地域ケア会議が十分活用できていなかったというところがはっきりしている。
- ・表からもわかるように、包括的・継続的ケアマネジメントの部分と多職種連携という部分が同時に低いということは、ケア会議を活用して、そのあたりのところの推進ができなかったところがある。29年度は29年度として、この状況を受けとめながら、30年度に改善する必要があると感じた。

【各地域包括支援センターの事業評価・味岡包括】

- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○田中委員

- ・資料の2-2の3ページの包括的・継続的ケアマネジメント支援事業について、味岡包括の件数が他の包括に比べて多いが、他の包括にない工夫をされたのか。

○事務局（味岡包括）

- ・包括的・継続的ケアマネジメントの件数について、複数の困難事例を抱えているケアマネジャーに対する支援に何回か入り、そのたびにカウントされたため件数が上がったものであり、特別何か工夫しているわけではない。

【各地域包括支援センターの事業評価・篠岡包括】

- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○野口委員

- ・地域ケア会議を行って、何か地域課題が出てきたことはあるか。また、その課題に対する方策等をどのように実施しているか。

○事務局（篠岡包括）

- ・篠岡圏域は、名古屋市のベッドタウンとして都市開発された成り立ちのある桃花台とそれを取り巻く周辺地域というところで、他人同士の集まりのような桃花台に対して、昔から地縁のつながりのある住民が暮らしている周辺地域がある。
- ・地域ケア会議を重ねるたびに、地縁のつながりのある地域は幼少期からつながっており、常につながっているような感覚はあるが、実際に介入してみると、決してそうではないことが分かった。地域の絆というものの希薄さが見えてきた。
- ・それをどのように再構築、もしくは具体的な支え合いの取り組みをつくっていくかということについて、見守りのネットワーク等を作るなど、もっと介入していかなくてはならないと感じる。
- ・今後の課題としては、具体的に見えてきた問題について、どのように取り組んでいけばいいか、その具体的なところをどのように出していくかということである。

○福澤委員

- ・地域のネットワークづくりなどに積極的に取り組んだという評価になっているが、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築の点数が低いのはなぜか。

○事務局

- ・ネットワークの構築については、包括が主体となって交流会や会議等がなされているかを標準としており、篠岡包括はその開催に至っていないことから、評価点としては、低い点数になっている。

○福澤委員

- ・評価では、地域とのネットワークづくりは取り組んでいるとなっているが、資料2-2の4.(4)の表からは交流会の1つである検討会等への参加の回数が少ない。整合性がとれていないのではないか。

○事務局

- ・評価は、ボランティア団体や民生委員等への支援といった地域への支援が評価の内容となっている。ここの評価項目については、専門職同士の会議や交流を持っているかという点で評価をしている。

○岩満会長

- ・住民とのネットワークと専門職とのネットワークがあり、この資料2-2の4ページのところのネットワーク構築に関する(1)や(2)というのは、住民に対するものの数字が書かれている。
- ・これを見ると、啓発や個別ケア会議の件数は高いので、地域とのつながりは良いが、多職種協働という専門職同士のつながりという点では評価が下がるということではないか。

【各地域包括支援センターの事業評価・北里包括】

- ・質疑、意見等なし。

【全体を通しての質疑・意見等】

○野口委員

- ・地域ケア会議を開いたことによって、地域特性として、何かやるべきこととして挙げられた事例はあるか。また、何か成果や取り組みによる気づきはあるか。

○岩満会長

- ・成果は難しいかもしれないと思うので、結果としてはどうか。

○事務局

- ・結果としては、味岡包括の地域ケア会議を経て、市に対して施策提案のあった、認知症の方の靴や杖にステッカーを貼付し、見守り体制を強化するといった事業が事例の1つとしてある。

○岩満委員

- ・地域ケア会議では、どのような話題が多いのか。

○事務局

- ・様々な話題があるが、認知症の方の支援の仕方や服薬の管理、移送の関係、あるいは災害時の対応についての話題が多い。

○沖本委員

- ・この間の2つの台風で、ひとり暮らしもしくは高齢者世帯から助けて欲しいといった電話などはあったか。

○事務局

- ・早い段階で報道等がされたためか、災害弱者とされる方については、急遽何かしなければならぬというものはないというものはなかった。自主避難という形で、早いタイミングで公共施設や会館に移動された方はいた。

○沖本委員

- ・資料2-2の3.(2)権利擁護事業の成年後見制度の利用や虐待への対応について、南部包括、味岡包括は件数が十数件となっているが、実際にどのように情報を得ているのか。

○事務局（南部包括）

- ・昨年度は虐待の対応が多かった。入口としては、包括ではなくケアマネジャーやサービス事業所から相談が入るケースが多い。相談の中から生活状況、金銭の行方などを探っていく。また、金銭の問題になるとケアマネジャー自身では問題解決が難しいため、行政にも相談し、様々なところと連携し対応している。

○福澤委員

- ・在宅医療・介護連携推進事業は、何をもってこの点数がつけられているのか。

○事務局

- ・在宅医療は、基本的には市が主導となっているところがあるが、包括として評価した内容については、資料2-1の4ページの一番最後の項目について、当てはまるかという評価をしている。

○福澤委員

- ・在宅医療について包括として、連携をとっていくことが難しいと考えるのか。
- ・顔の見える関係になると連携を取りやすいとは思いますが、包括として何か感じることはあるか。

○事務局（北里包括）

- ・在宅医療・介護連携の自己評価項目は、研修会に3回以上参加したかという項目だが、日々の連携の中では、個別ケースを通じて病院の退院時期の支援を一緒に行ったり、サービス調整の中で医療機関との関わりを持つということは当然行っている。その中で、どのように活用していくかというところで、ICTや連携シートを十分活用して支援につなげていくという視点を大切にしている。

○事務局（篠岡包括）

- ・在宅医療については、前から弱いところである。連携シートを活用していく取り組みについて、一番肝心なのは、顔の見える関係というより、一緒にケースにかかわって

いく上で、どこに焦点を絞り一緒に関わっていくかというところである。

- ・電話やメールでのやり取りの中で、同じ考えであると感じると、共有の認識を持てると一番実感する。

○事務局（味噌包括）

- ・ICTや連携シートは活用しているが、特に診療所について、直接会って相談等をさせていただくことが増えてきていると感じる。
- ・実際に対面し、相談していく中で関係性は作られると思うので、そういった活動は続けていきたいと考えている。

○事務局（小牧包括）

- ・小牧包括としては「こまきつながるくん」などを活用するよう包括職員で意識して取り組んでいる。病院から家に帰るときに、多職種と連携をとる際に連携シートや「こまきつながるくん」が有効であると感じる。特に、連携が密に必要なところは入退院時であり、ICTによって入退院の情報の交換がスムーズにでき、画像でも確認できるというところでは有効であると感じている。また、対象者に関わる事業所だけでネットワークを組んで情報のやりとりができる点では、意識して見ていけばとても迅速に情報の伝達が行えるため、ツールとしてとても有効と感じる。

○事務局（南部包括）

- ・様々な場面で連携シートを活用している。ファックス等でやりとりする中で、連絡がなければ受診に同行するなどの支援をしている。また、南部包括では、2カ月に1回の頻度で「お元気だより」という機関紙を出している。医療機関には2カ月に1回訪問し、受付の方と会話し、顔の見える関係をつくるようにしている。

○沖本委員

- ・包括支援センターの職員は年次休暇を取りやすい状況か。

○事務局（南部包括）

- ・現場は特養と併設しており、特別養護老人ホームの支援員は取れない状況はあるが、包括職員は休暇をとらせていただいている。

○事務局（小牧包括）

- ・業務的に土・日の勤務も多いため、平日に代休を取得して調整している。偏りがなく公平に休暇を取得している。

○事務局（味噌包括）

- ・職員の家庭の事情などもあるが、比較的取得しやすいのではないかと感じる。また、法人の福利厚生旅行等があり、有給等で利用している。

○事務局（篠岡包括）

- ・年休の取りやすさという点では、あまり取りやすくないと感じる。
- ・法人の中で、特定の期間中に決まった日数のリフレッシュ休暇を取得できる制度が福利厚生としてあるが、そういったものは利用できていると思う。

○事務局（北里包括）

- ・比較的取りやすい環境にあると思う。また、北里包括の職員は5名であり、お互い休暇の状況を共有して、互いに取りやすい雰囲気を心がけている。

○吉元委員

- ・認知症総合支援事業について、カフェやサロン、認知症サポーター養成講座等様々な取り組みがある中で、認知症の介護者に対する講座もしくは支援として実際に介護をしている方への支援事業をあまり見かけない。
- ・実際に困っているのは介護者だと思うがどうか。

○事務局

- ・介護者への支援としては、地域包括支援センターが介護者の家族交流会を年4回程開催している。

○事務局（味岡包括）

- ・味岡包括は、29年度は毎月家族交流会を開催していた。そこから派生した認知症カフェを今年度から実施している。両方合わせて見たときに、重複される方が多いが、平均で10名から15名ぐらい参加している。

○吉元委員

- ・家族の方で、なかなか外に出られない方や交流会等があるのは分かっているけどそこに行けないという方がたくさんいる。支援等は大切であるが、単に愚痴を言う場が本当の意味であるのか。
- ・何か仲間内でもどんな形でもいいので家族のために愚痴を言える場所があるといいと思う。サロンや認知症カフェというものでなく、本当に介護されて日々頑張っている方を集めてほしいと思う。
- ・もしくは、簡単に行けるような、一生懸命頑張っている方のためのカフェみたいなものがあるといい。認知症の方を介護している方に限らず良いことも悪いこともしゃべれるような場があると、家族は随分救われるのではないかと思う。

○田中委員

- ・尾張北部権利擁護支援センターが開設され、そのセンター長から話を伺うと、包括からの相談が少ないということだった。包括で該当ケースがあれば、是非、連携を取ってもらいたい。
- ・今日の委員会の中で、地域ケア会議に関する話題が多い。これをどう活用していくかというのが非常に大きな課題であると感じる。各包括で今までに件数を重ねてきていると思うが、個別会議等で挙がってきた課題を圏域でどう評価し、関わり、つながっていくのが課題である。
- ・介護予防プランの件数がかなり多くなってきている。基本チェックリストが実施され、介護度の改善という介護予防の部分をこれから水際作戦でやらなくてはならないと感じるが、ケアマネジャーとの連携のあり方や評価をどのようにしていくのが課題である。

○事務局

- ・地域ケア会議については、先ほどより、福澤委員や田中委員が言われるように、一人の方の暮らしを支えるネットワークができ、これできて初めて全体的な包括ケアシステムにつながっていく。
- ・この視点を大事にし、一人の方を支えるネットワークから広がりを持っていけるように、市として進め方等について包括や関係者と協議し進めていく必要があると考える。
- ・圏域や市域レベルという話では、小牧市として市域全体でそういったものを検討する場が現状としてはないため、そうした場の設置について、検討を進めている。
- ・介護予防については、新しい総合事業ができたことにより、予防の幅が、ハイリスクの方から、幅広く65歳以上の方全員を対象に介護予防に取り組むというスタンスに切りかわってきている。介護予防活動の取り組みについては強化していく必要があると考えている。
- ・リハビリテーション連絡会の先生方に協力をいただいて、介護予防体操として「こまき山体操」を構築した。先日、体験会を行い、比較的皆様方から取り組みやすく、自分のペースでできるとの感想をもらった。こういった手法も広めていきながら予防の

取り組みを強化していきたいと考えている。

【評価について委員からの講評】

○福澤委員

- ・地域ケア会議について、地域包括ケアシステムというものをよく理解した上で頑張っていたきたい。
- ・医療との連携に向けて介護の分野からもアプローチして欲しい。

○社本委員

- ・評価の円グラフを見た限りでは、各包括ともに頑張っていると感じる。北里包括については職員数が少なく感じるが、バランスよく配置して欲しい。

○吉元委員

- ・このグラフに関しては評価区分というのがあって、なるほどと思う。しかし、数字のデータは、なぜ包括によって数字の差があるのか単純に疑問である。数字のカウントの仕方が違うのか、数値が示すものが地域の差なのかが分からない。
- ・介護予防プランについては、包括支援センターから委託をもらうと、経営的な観点から、経営者はあまりいい顔をしない。居宅介護支援事業所にはあまり介護予防プランの作成を依頼してほしくないという思いがあり、委託率だけを見るともう少し包括自身でプランを作成して欲しいと思う。
- ・包括職員の人数等を見ると包括も大変であるとは感じる。現在、小牧市内のケアマネジャーが減っており、介護予防プランの押しつけ合いが心配である。

○田中委員

- ・今回の評価表については、数字で出てくるところと出てこないところがあり、実際に包括で実施している事業のすべてを評価できていないと感じた。
- ・国がどこを求めているかという部分がこの指標の中に出てきていると思うため、各包括で今一度この評価項目を見ながら、どの点を実施していかななくてはならないかなどを確認できるものになったのではないかと思う。

○野口委員

- ・偏りなく業務をしていくことは必要である。圏域内の高齢者人数や包括職員の人数等もあるため、その中でポイントを押さえて、頑張っていたらこういった評価も上がるのではないかと感じる。

○沖本委員

- ・認知症見守りステッカー事業は、既に実施しているのか。他の包括も実施していくのか。
- ・篠岡包括のカウントのとり方が違うのではないかとの指摘もあった。今後調整していただきたい。

○坂東委員

- ・グラフになると一番高くても 3.8 という指標から一番低くても 3.3 で、大きな差があるようには感じない。しかし、資料 2-2 の表の件数を見ると、1桁違うところも多い。
- ・カウントの仕方が違うのだろうと思うが、やはり数字だけあるとどうしても数値に目が行く。
- ・篠岡包括については、相談数が少なかったりするが、桃花台の人口が少ないわけではなく、高齢者もどんどん増えており、現時点でも別段少ないと感じない。子世代を頼って他府県から来ている高齢の方もいるので増えているような実感がある。

- ・相談数が少ないのではなく、カウントの仕方なのではないか。明らかな数字の違いに目が行ってしまいがちであるので、統一されたカウントの仕方で数字を出せるといい。

○沖本委員

- ・それぞれの圏域の地区民協の後などに、相談があれば包括へ相談するように言っているが、篠岡包括も会議後に相談等を受けたりするのか。

○事務局

- ・篠岡包括も地区民協には出席しており、勉強会等を実施している。
- ・先ほどの、味岡の認知症ステッカー事業に関しては、現在もモデル的に実施している。味岡圏域だけでなく、他の地区で希望のあるところは、対応していただいている。
- ・来年度から、全市的に展開できるように準備を進めていきたいと考えている。

○岩満会長

- ・今回の評価について、資料のような評価でよいか。

⇒異議なし。

- ・今回の地域包括支援センターの事業評価については、今回、審議した内容で公表される。
- ・今回の資料や自己評価で改善すべき点など見えてきたと思うが、これを踏まえて来年度に向けて地域包括支援センターには頑張ってもらいたい。

3. 報告

(1) 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について

- ・事務局より報告。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○沖本委員

- ・委託契約締結に至る経緯に「6月末で閉鎖することになった」とあるが、閉鎖することは本当にあるのか。
- ・閉鎖すると利用者が困るのではないか。

○事務局

- ・過去にも閉鎖したところはある。

○福澤委員

- ・閉鎖は事業継続が困難となれば当然あることである。閉鎖する場合、利用者には迷惑がかからないようにしていると思う。

4. 閉会

- ・次回、2月14日開催予定。